

新郡市医師会長の紹介

赤平市医師会会長

郡 正博 先生



新会長の郡先生は満66歳の地元出身の医師で、昭和51年に札幌医大を卒業した精神科専門医です。奥様も医師で、1男1女をもうけられ、この地がちりと根を下ろされている方です。趣味はスポーツ観戦であり、また、自然を愛し、きれいな庭とご家庭を円満に作り上げていて、誰にでも好かれているきわめて温厚な方です。

赤平市は空知川の流れる谷間に位置し、かつて炭鉱で栄えた小さな街で、赤字で一躍有名になったのですが、努力の結果黒字になり、今年の4月にめでたく、あかびら市立病院の全病棟の改築に成功しました。赤平市医師会は、この市立病院と精神科単科の病院、1診療所で構成された小さな医師会であり、会員数は28名です。家庭的なごやかな雰囲気の中で運営されています。新しく医師会長になった郡先生は、社会医療法人の病院長も兼ねており、中空知の地域医療福祉の構築のために気を配らなければ

ならない、多忙な地位に着いたわけであります。とてもやさしい初老の医師に、会員全員が協力して、市立病院をもり立てて、地域医療のために頑張っています。

しかし、市立病院を中心とした地域医療でしたが、いろいろな要因が重なり、診療所が1軒だけに減少してしまいました。一方で、自治体間の折り合いがつかず「中空知中心病院」の創設に失敗してからは、人的資源が分散し、市立病院の医師不足にも苦しんでおります。また、救急医療体制の維持にも苦しんでおり、医師会として協力しつつ、医師会員で内科臨床医でもある奥様を週1日、市立病院の外来診療に派遣するという協力をしております。この激務を癒すべく、年1回は奥様との世界の観光地めぐりに出かけるという楽しみを持たれていることは、たいへん素晴らしいことでもあります。

医療と福祉のために、精神的に悩んだ患者さんにやさしく接し、長く併設の老人保健施設長もしてきた経験を生かし、若い先生方や市の職員の方々の協力も得て、郡先生の指導力と秘められた能力が発揮されることを期待しているところです。

赤平市医師会
議長・医報通信員 小川 幹雄

お知らせ

反射性（神経調節性）失神及び不整脈を原因とする失神に係る主治医の診断書の適正な運用のための協力について

◇総務部◇

一定の病気等に係る運転免許制度につきまして、道路交通法の一部を改正する法律（平成13年法律第51号）により、病気の症状によって運転免許取得の可否を個別に判断することとされております。

今般、反射性（神経調節性）失神及び不整脈を原因とする失神（植込み型除細動器を植え込んでいる者に限る。）に係る診断書のモデルが様式化され、下記当会ホームページに掲載いたしましたので、お知らせいたします。

北海道医師会ホームページ「新着情報」

<http://www.hokkaido.med.or.jp/topics/index.php>

○反射性（神経調節性）失神及び不整脈を原因とする失神に係る主治医の診断書の適正な運用のための協力について